



おとひめ

令和8年4月8日(水)



未来へのカウントダウンが始まりました ～この一年を、次の一步へ～

山口小学校長 吉村 康介

新年度第一号から少しくだけた話になりますが、お許してください。

私が子どもの頃、「イスカンダル星に行ってコスモクリーナーという装置を地球に持ち帰らないと、一年後に地球は滅びてしまう」という設定のアニメがありました。ご存じの方もいらっしゃるでしょうか。このアニメでは毎回、「人類滅亡まであと〇日」というナレーションが流れていたと思うのですが、今思えば、このナレーションは緊張感や悲壮感を高める演出だったのでしょうか。

また、これもアニメの話になってしまいますが、日曜の夕方にサザエさんが始まると、休日が終わってしまうことを感じて、なんだか憂鬱な気分になるということがあります。「サザエさん症候群」と言うらしいです。おそらく多くの皆さんが同じような思いをされたことがあるのではないのでしょうか。このように、「終わり」というのはどこか物悲しく、寂しさや切なさといった負の感情を抱くことが多いです。

さて、山口小学校は令和9年度から新学校としてスタートする予定で、近隣3校の統合準備が始まりました。計画が予定通りに進めば、今年度をもって山口小学校は閉校することとなります。この「閉校」という言葉を聞くと、どうしても「終わり」の響きを感じてしまうわけですが、私はこの一年を「終わりへのカウントダウン」ではなく、「始まりへのカウントダウン」だと考えています。悲壮感ではなく、むしろ期待感をもってこの一年を締めくりたいと思っています。残された時間が限られているからこそ、やるべきことをきちんとやり、一層学校を活性化させ、誇りを持って未来へつなげる、それが、閉校を迎えるにあたっての私の思いです。

職員一同、保護者の皆様、地域の皆様とともに、今年度の最後まで笑顔で歩みたいと思っています。どうぞご理解とご協力をよろしく願いいたします。

【始業式での校長の話】

みんなには「好きな景色」がありますか？校長先生には、山口小学校から見える景色の中でとても好きなのところがあります。それは、音楽室の窓から見える風景です。山口から坂下の町へと続く開けた場所に、木曾川がゆったりと流れています。そのまわりには、田んぼや畑、そして山々が広がり、そこをときどき電車が走っていきます。その様子を見ると、校長先生はいつも、どこか懐かしいような、そしてわくわくするような気持ちになります。みなさんも、音楽室に入ったときに、改めて見てみてください。

ところで、去年の始業式を覚えている人はいますか？校長先生はみんなに、「星の王子さま」という本を紹介しました。今年もひとつ本を紹介しようと思います。「あさになったので まどをあけますよ」という絵本です。この絵本には、音楽室から見るあの景色にとってもよく似た絵が描かれていたので、思わず手に取ってしまいました。この絵本は、どのページを開いても、朝になって窓を開けたとき、光や新鮮な空気が入ってきて、光の先に美しい景色が広がっている様子が描かれています。この絵本を読むと「今日も、素敵な一日になりそうだな」って、そんな気持ちになります。もし、読んでみたいという人がいたら、ぜひ校長室を訪ねてください。

さて、この絵本の世界のように、山口小学校で過ごす毎日は、とても素敵な一日一日です。そして、同じ日は、もう二度と来ない、大切な一日一日です。特に今年は、山口小学校最後となるかもしれない年です。一日一日が特別で、大切です。学校には、好きなことや楽しいこと、苦手なことや難しいこと、いろんなことがあるけれど、全部みんなを成長させる時間です。少しくらいつらいことがあったとしても、みんなをもっと大きく、もっと強くしてくれる、これもまた大切な時間となるかもしれないです。だから、どんな日も、みんなにとって素敵な一日なのです。この一年、この絵本のように、窓を開けて新しい光を浴びるつもりで、素敵な一日を楽しみに、元気に山口小学校に通ってきてください。